

事業所における自己評価総括表(児童発達支援・放ディ)

公表			
○事業所名	にじの丘		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日	~	2025年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 7人
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日	~	2025年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 15日		
○ 分析結果			
	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの発達状態に応じた個別活動と集団活動が出来る	・集団活動での集団生活適応訓練だけでなく、個々のニーズに合わせた個別療育の実施を軸に、日常動作訓練、創作的活動、機能訓練等の適応訓練を日々の活動に取り入れている。 ・音楽療法では、リトミックを通して、ソーシャルスキルや即時反応を高める指導を行っている。聴覚や集中力、自発性、表現力などへの働きかけを行っている。 ・乗馬療法では、体幹を整え、鍛えるだけでなく、動物セラピーでの自律神経を整える事を目的に行っている。	・個別療育を定期的に行つた後に、保護者様に分かりやすく、フィードバックできるツールの活用を検討する。 ・リトミックで培ったリズム感覚や表現力等を披露する機会を設ける。
2	季節毎のプログラムや行事がある	行事の担当制や行事をスムーズに行えるように委員会の設置を行い、各担当者が行事の組み立てを行っている。	子供たちが更に色々な体験を史、色々な事を感じ、心豊かに育つように、新たなイベントを考えていきたい。
3	保護者(家庭)への支援	・LINEなどで活動の様子を写真で報告している。また、保護者面談を行っており、支援内容だけでなく、子育てに関する困りごと等の相談は随時受付している。 ・また当事者同士のつながりの場として、親子参加イベントを開催している。	保護者向けの茶話会や勉強会などの取り組み検討中
4	手厚い支援体制	・担当職員を軸に、各職員が個々に関わりを持ち、療育に携わっている。また、個々の療育内容を職員間で共有し、スマーリステップを全員で分かち合うようしている。 ・日々の活動の様子を書面だけでなく、秋祭りや運動会、卒園式などの機会に、画像や動画にて見ていただけるよう意識して記録をしている	・子育てサポート加算や家族支援加算を定期的に活用して、保護者様への相談援助やフィードバックを大切にしてく。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われる事	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門的支援の定期化	理学療法士による支援のニーズが高いが、十分な時間の確保や定期的な支援に至っていない。	専門人材の配置を行っていく為、有資格者の雇用を行っていく。
2	児童発達支援の利用者数が少なく同世代の友達との関りが少ない。	小学生以上の利用者で定員がいっぱいになっている。	未就学児の確保に努める。また、指導員の子ども(同世代)を関わる機会を設ける。
3	室内の環境調整の難しさ。	療育スペースの狭さや幼児用のトイレや手洗い場が設置できていないなど、構造上の課題がある	構造上の問題はすぐには解決が難しいため、空間をうまく使う工夫や補助道具を使用して対応していく
4	話し合いの時間や研修の時間を取るのが大変。それに付け加え、全員そろっての話し合いとなると、中々職員が揃っての話し合いの日程を組むのが厳しい。	午前・午後と児童のお預かりがある為、常に子供たちがいて、話し合いの時間が取れない。	人材の確保や他店舗からのヘルプ等により、十分な話し合いや研修が行える様組み立てる必要がある。
5	地域交流	運動会や秋祭りを公共施設を借りてを行っているが、近隣を招いての活動を取り組むまではまだ難しい。	安全を考慮しながら、外部参加が出来る行事を検討中
6	他事業所との連携	相談員を通して必要な情報共有は行われているが、事業所同士が直接情報共有する場を作る事が時間的に困難	担当者会議などの時間調整に工夫が必要